

=====

S T B J ニュースレター (NO.6)

=====

平素より、ストップ結核パートナーシップ日本にご理解、
ご協力頂きまして有難うございます。
皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜びいたします。
S T B J では、個人会員の皆様とのコミュニケーションを活発に
していきたいと考えております。
メールアドレスをお持ちの皆様に S T B J の活動をニュースレター
としてご紹介させて頂いています。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

2011 年 7 月 ~ 2011 年 8 月

S T B J 活動報告

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

= 結核対策提言活動 =

【2011 年 7 月 8 日】

要望書提出

3 月に起こった東日本大震災や政府の財政の逼迫により
結核対策関連予算が減少することが懸念されています。
STBJ では厚生労働省、外務省へ要望書を提出しました。

<http://www.stoptb.jp/>

= 啓発活動 =

【2011 年 7 月 7 日】

STBJ 活動紹介 in 東洋大学

東洋大学の社会学部社会福祉学科の学生を対象に世界や日本における
結核の現状を伝え、アクションプランの目標を踏まえて STBJ のミッション
を説明の上、昨年度実施したフィリピンの患者支援活動等について紹介を
行いました。

【2011 年 7-8 月】

資料配布 =リーフレット、パンフレット=

堺市(保健所)(各 1100 部)、京都市(保健所)(各 100 部)、
修士会(S T B J 団体会員)(各 510 部)千葉保健所(各 1000 部)
結核予防会福井県支部(各 50 部、ポスター2 部)など。

= 外部会議への参加/STBJ 常任理事会 =

【2011 年 7 月 21 日】

第 98 回 外務省 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会

1. TICAD フォローアップ会合について
2. 国連エイズ・ハイレベル会合について
3. G A V I アライアンス増資会合について
4. 今後の国際会議に対する取り組みについて
 - 1) N C D ハイレベル会合
 - 2) 第 10 回アジア太平洋地域エイズ国際会議
 - 3) 第 6 回 APCRSR
(Asia Conference on Reproductive and Sexual Health and Rights)
5. 第二次・三次・四次補正予算、来年度予算について
6. グローバルフェスタ (10/1、10/2) について

外務省側は、補正予算について外務省や JICA 等の予算が削減されるなか、夏・秋の補正では復興だけに予算が流れないよう、ODA+復興といったプログラムを考えていきたいとのこと。NGO 側からのアドバイスも求められた。また、NGO 側からは企業の助成が国際協力から全て震災へ流れているので、外務省から企業に向けて国際協力への支援も重要であるとの働きかけも行っているとの意見があった。

【2011 年 7 月 29 日】

第 23 回常任理事会を開催

水道橋ビル 5F 17 : 00 ~ 18 : 00

1. 真栄城守和氏 急逝 (3/22) に伴う新監事選出の検討
→ 保生会 大場会長に依頼。
2. 寄付について (認定 N P O 法人認定条件として有利になる)
→ 認定 N P O 法人としての認定を受ける際、税制控除が受けられるため
年平均 100 人から 3000 円以上の寄付がもらえるよう募金活動の策を考える。
3. 記者発表内容の検討
4. 耐性結核新薬開発基金
フィリピン大塚 O P C デモンストレーションスタディの可能性
機材整備 (X 線機器の digital 部品、コンピュータ)
データ管理 など。

= 寄付について =

- ・ 栄研化学様 2 5 万円 (6/20 入金)
- ・ 大塚製薬様 1 0 0 万円 (6/24 入金)
- ・ 日本 B C G 製造様 5 0 0 万 (7/8 入金)
- ・ 結核予防会様 150 万 (入金時未定)

= その他 =

【2011年8月19日】

厚生労働省より「平成22年結核登録者情報調査年報集計結果」（概況）の発表。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou03/10.html>

【2011年8月】

当団体の監事、真栄城守和氏が3月下旬にご病気でご亡くなりになりました。

真栄城さんには、監事を平成22年8月よりお願いしており、大変お世話になりました。

今回のニュースレターではSTBJより真栄城さんに向けた追悼を記載します。

監事 真栄城守和さんへの追悼 代表理事 森 亨

真栄城さんに初めてお目にかかったのは1990年代の後半、たしかその当時全日本患者同盟が毎年開催していた「結核フォーラム」の企画について、会長（故小林義雄さん）とともに結核研究所の所長室にお見えになったときだったと思う。ダイナミックだったがご高齢の会長を秘めたる情熱家タイプの真栄城さんが支えるかたちのコンビだった。

パートナーシップ発足当時から監事の役をお願いしていた小林さんが2年前になくられたあと、私は真栄城さんにお目にかかって小林さんの後継者として当パートナーシップの監事への就任をお願いした。当パートナーシップにとって、世界にもまれな結核患者の運動体である患者同盟は、貴重なパートナーと考えた私は、多少無理してもその代表に組織の要の役職をお願いしたいと考えたからである。ちょうどその頃小林会長を失った同盟は存続が危ぶまれる状況になっていた。真栄城さんは、同盟の機関紙「健康新聞」の編集責任者だったが、同盟の存続に向けて大変なご心労をされていたことと思う。しかし真栄城さんはためらいながらも私のお願いを容れてくださった。

そうしていく月も経たないうちに真栄城さんは急逝された。痛ましく、無念この上ない。

沖縄県出身の真栄城さんは療養の傍らでの東京の生活にはずいぶん辛酸をなめられたことと思う。加えて患者運動の先頭に立たれていたのである。最近新しい仕事のために沖縄と東京を行ったりきたりされるようになっておられた。喜怒哀楽の表情をあまり出されない方だったが、沖縄のことを話されるときだけは顔を和ませていた。2008年、私が那覇市で結核病学会九州地方会の特別講演をしたとき、一般に公開されたその会にたまたま沖縄においでになっていた真栄城さんが傍聴に来てくださった。

そのときの講演で私は、戦後の沖縄の結核対策や研究の成果が日本全体の結核対策に果たした役割について話したのだが、全国的な患者運動の中でも沖縄県出身者が貢献したことをそのとき話せばよかったと思うが、もうおそい。いまはただ冥福を祈るのみである。

【お知らせ】

記者発表「JOYストップ結核ボランティア大使就任 記者発表」

日時：2011年9月7日（水）11:00～

場所：厚生労働省 9F 会見室

<http://www.stoptb.jp/JOY%20press%20release.pdf>

-----*** -----**-----*-----*** --* -----**

このニュースレターの配信を希望されない方は
下記メールアドレスまでお知らせくださいませ。

kaiin@stoptb.jp

（担当 宮本/下谷）

-----*** -----**-----*-----*** --* -----**